



# ぶらり散歩2



秋の休日の午後。夕食までにはまだまだ時間があります。読書にも疲れたし……。ちょっと散歩にでも出かけましょうか……。というわけで、今回は、「安威川・茨木川合流の碑」から元茨木川緑地の中を通って、高橋の交差点まで歩いてみました。

散歩は心地よいひとときと健康を与えてくれます。あなたもいかがですか。



上:元茨木川緑地の樹木 下:健康歩道



「安威川・茨木川合流の碑」辺りから元茨木川緑地に入ってみましょう。

入るなり、緑地の木々が頭上を覆うようにそびえ立ち、まるで林の中に入っているようです。ヒノキやケヤキに混じって、サクラがたくさん植わっています。春には多くの人で賑わうのですが、今は、人もまばらで読書にはぴったりの場所です。

田中町の交差点で途切れた緑地を再び歩きます。以前、ここを歩いていた時、木の根元に何かを蒔く作業をしている人を見つけました。話を聞いたところ、市内の公園で剪定した枝葉を細かくして、腐葉土がわりに使っているとのこと。なるほど、足で少し踏んでみると、通気性のよいフカフカの土になっていました。それにしても、手入れが大変でしょうね。

JR京都線高架下をくぐってすぐの所に、健康歩道(トッピーパワー)があります。30メートルほどの長さに敷き詰められた小石の上を、素足で歩いて足の裏を刺激し、血行をよくしようというものです。さっそく挑戦してみました。これがびっくり、すごく痛いのです。ヒューヒュー言いながら歩きましたが、終わってみると足が軽くなったような気がしました。



「茨木城跡」を案内する標識が見えてきました。茨木城は15世紀代に築城され、本丸は現茨木小学校の辺りにあったそうです。茨木小学校の正門は茨木城の櫓門を復元したものです。1617年に廃城されるまで、茨木氏、中川氏、片桐氏などが入れ替わり城主になりました。大名が生き残りをかけて争った戦国時代……。大変な世の中だったんですね。

緑地の中をさらに進みましょう。右手に川端康成文学館が見える辺りに、「佐介樋跡」と書かれた碑を見つけました。どうやら、戦国武将、古田佐介(織部)がこの辺りに屋敷を構え、茨木川から取り水をしていたのでしょう。茶人で、千利休七哲の一人だった佐介が、樋から取り込んだ水で茶をたて客人をもてなす……。そんな光景が浮かんできます。

ちなみに、織部焼は彼の指導によって創られたそうです。



上:櫓門を模した茨木小学校正門 下:佐介樋跡碑



元茨木川緑地は、元々が川ただけに、樋跡や橋跡がたくさんあります。

「丹波橋跡」もその一つです。「でもなぜ丹波橋?」。橋の道が、田中から白井河原に出て、福井村で亀岡街道に合流して丹波に通じる道路だったことから、丹波橋と名付けられたようです。

高橋が見えてきました。がっしりとした石造りの橋には、欄干の四隅に、行き交う人々を眺めるように茨木童子像が立っています。橋の下には、江戸時代の頃と現在の高橋とが壁画になって飾られています。昔は水がとうとうと流れていたんですね。よく氾濫したとも聞いています。つくづく時代の移り変わりを感じます。今は、きれいな緑地に生まれ変わって、市民の大切な憩いの場になりました。

もうすぐ夕方です。そろそろ家に帰りましょう。



上:丹波橋跡付近 下:高橋の交差点付近

# 茨木市の歴史をひもとき市民に伝え残す 茨木市文化財愛護会

茨木市文化財愛護会は36年の長い歴史を持っています。その活動は、茨木市の文化財の保護や調査研究、さらに、市民への文化財保護の啓発にまで及んでいます。

そこで、これまでの活動や調査中のエピソード、歴史的観点から見た茨木市の魅力などについて、生涯学習センターきらめきの講師でもある会長の小林章先生と副会長の山崎茂和先生に話を伺いました。

## 茨木市文化財愛護会とはどのような会ですか。

茨木市文化財愛護会は、茨木市の歴史に興味を持つ人や豊富な知識を持つ人たちが集まって昭和49年(1974年)に発足しました(前身の茨木市文化財研究調査会は昭和35年[1960年]に発足)。昭和45年(1970年)、大阪での万国博覧会開催の頃から茨木の地域にも都市化が進んできました。そして、新しく住み始めた市民にゆとりができて、自分たちが住んでいるまちが、どのような歴史を持つ地域なのか知りたいと考えられるようにもなりました。このような時代に、この会が誕生したわけです。主な目的は、茨木市域にある文化財を大切に守り伝えるための調査と研究、その成果を市民に提供することや市民への文化財保護の啓発などです。

現在、メンバーは約130人います。その中には、専門的な知識を持った方々や歴史が好きで入会した方々もおられます。

当会は、毎年、史跡の見学会や講演会、発掘調査見学会、郷土民俗資料展などを開催しています。今年もすでに講演会や見学会を行いました。また、出版物の編纂や会報の発行なども行っています。



毎年、教育月間に開催される郷土民俗資料展(写真は市制施行60周年[平成20年]に開催された資料展)



文化財愛護会の副会長と会長  
平成19年に開催された紫香楽宮跡見学会(滋賀県)

## 茨木市は歴史的に見てどのようなまちだとお考えですか。

茨木市は地理的条件の良さから、古代から多くの人が住んでいました。このため、古墳は前・中・後期のものがあり、東奈良遺跡などに代表される遺跡もたくさんあります。平安時代に編纂された『延喜式』には、式内社として市内の神社が数多く掲載されています。また、白井河原の合戦場や隠れキリシタンの里、郡山宿本陣(樺の本陣)があります。歴史上の人物との関わりもたくさんあります。例えば、藤原鎌足や古田織部、浅野内匠頭などが挙げられます。そのほか、織田信長が娘婿の中川清秀の茨木城に来たのではないかと、また、豊臣秀吉が現茨木神社境内の名水、「黒井」の水を大坂城まで運ばせて茶会を開いたなどというエピソードもあります。

茨木市域の歴史を学んでいくと、日本の歴史の流れを知ることできます。そして、その時代の人の立場にたって当時のことを考えることで、さらに歴史の違った側面が見えてくるでしょう。

## メンバーにはどのような方がいらっしゃったのですか。また、何かエピソードはありますか。

発足当時から、学校の先生や僧侶、神主をはじめ、多彩な顔ぶれが集まっていました。キリシタン墓碑を発見された藤波大超先生もこのメンバーのひとりでした。

藤波先生から聞いた、キリシタン墓碑発見時のエピソードは感動的です。先生が旧制茨木中学校の生徒だった頃、恩師から、「君の家の近くの千提寺付近は、個人の墓が多く、昔は高山右近の領地だったので、おそらく隠れキリシタンがいただろう」と聞かされた藤波先生は、千提寺付近の民家を一軒一軒訪ね歩かれました。しかし、どこのお宅も口を閉ざし何も聞くことができません。当時はまだ、口外すると大変なことになるのではないかと思われていたようです。それでも熱心に通ってこられる藤波先生に、ついに一軒の家の当主が心を動かし、「村の墓を見に行こう」と誘い出しました。そこで見せられた石には、二支十字草と「上野マリヤ 慶長八年」の文字が刻まれていました。そして、当主と家の跡継ぎ以外は絶対に開けてはならない「あけずの櫃」を見せてくれたのでした。そこからは、教科書にも載っているザビエル画像などが出てきました。この話は、大正9年(1920年)のことで、もちろん、この会が発足するずっと前のことです。

ほかにも、当会には、すばらしい活動をされた先輩方がたくさんおられます。私たち現メンバーは、諸先輩方の精神を支えとして、精力的に活動を続けています。